

鹿児島県海域におけるキビナゴの漁獲特性

資源管理部 主任研究員 野元 聡

【目的】

キビナゴはニシン目ニシン科に属する沿岸性の小型浮魚で、「かごしま旬の魚」で夏の魚にも選定されている鹿児島県を代表する特産魚の一つである。

本種は本県の沿岸漁業において重要な資源として、流し刺網、棒受網を主体に漁獲されているが、その漁獲量は、年により大きく変動し、近年においては減少傾向にあり、平成 25 年は県全体で 1,273 トンと昭和 62 年以降最低の漁獲量となった。

そこで今回は、漁獲統計を基に本県海域における漁獲特性を明らかにするとともに、漁獲量変動の要因について検討した。

【材料及び方法】

1) 漁獲量

県全体の漁獲量は、昭和 62 年から平成 18 年までは農林水産統計年報から、平成 19 年以降は当センターにて漁協水揚げデータを集計し動向を把握した。

2) 漁獲量変動要因

キビナゴの漁獲量の変動要因として、海面水温、黒潮北縁位置（佐多岬からの離岸距離(マイル)）に着目し相関関係の検定を行った。なお、本県周辺海域の海面水温、黒潮北縁位置は、当センターで行っている定期旅客船の観測データを用いた。

【結果及び考察】

本県のキビナゴ漁獲量の推移（図 1）は、昭和 62 年から平成 19 年までは増減を繰り返しながら 1,600 ～ 2,200 トンの間でほぼ横ばいであったが、平成 20 年以降は減少傾向にあり平成 25 年は過去最低の 1,273 トンとなった。特に近年は甬島海域での減少が顕著であり（図 2）、平成 25 年の漁獲量は 399 トンで前年の 60%、平年（過去 10 年平均）の 54% であった。

海域別漁獲量の割合では、甬島海域、北薩海域（長島～阿久根沖）、南薩海域（野間岬～枕崎沖）、熊毛海域が 4 大漁場で、県全体の漁獲量の 9 割以上を占めている（図 3）。

近年の漁獲量変動の要因を検討した結果、甬島海域では、甬島海峡の冬季（前年 11 ～ 2 月）の水温と主漁期である 4 ～ 7 月の流し刺網漁獲量の間に関係が見られ、冬季の低水温が不漁の要因となることが示唆された（図 4）。

また、熊毛海域における流し刺網の年間漁獲量と黒潮北縁位置の 7 ～ 10 月の平均

値の間に正の相関が見られ、黒潮北縁の位置が熊毛海域の漁獲量に影響を及ぼしている可能性が示唆された（図5）。

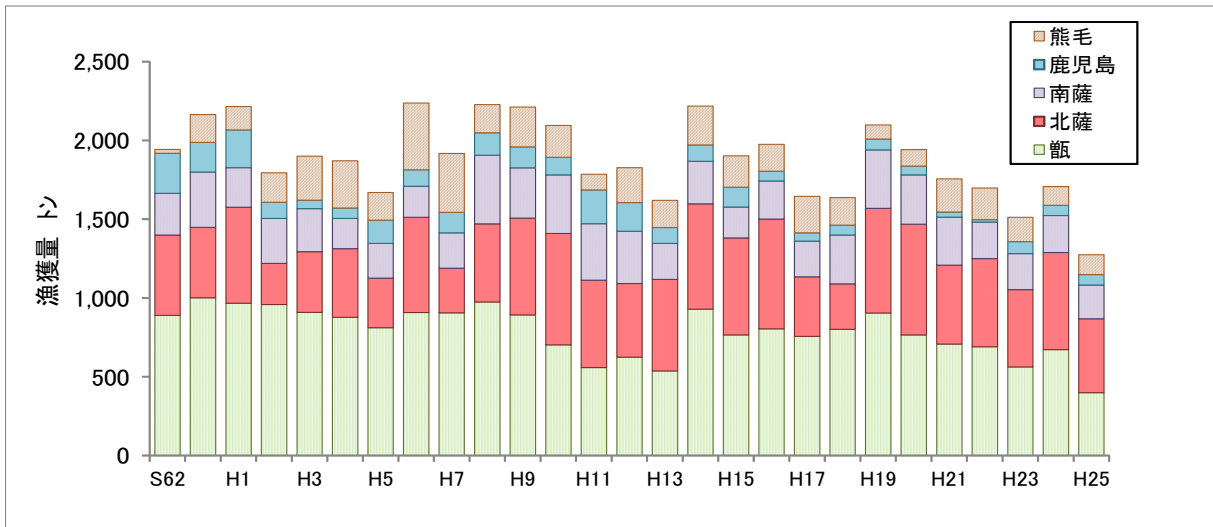


図1 鹿児島県のキビナゴ漁獲量の推移

昭和62年～平成18年までは農林水産統計年報，平成19年以降は水技センター調べ

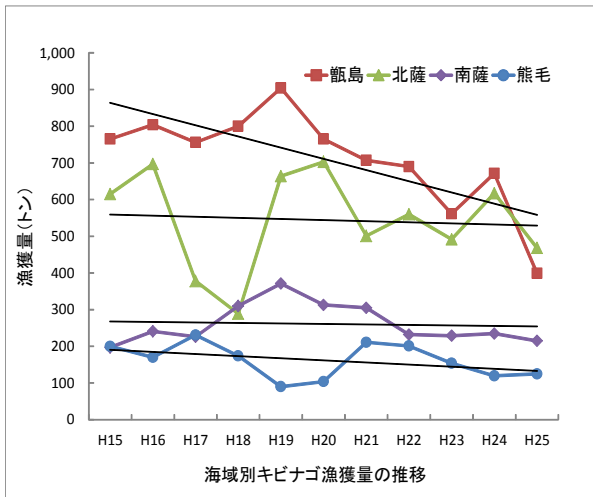


図2 近年(H15～25年)の海域別漁獲量の推移
(データは図1と同じ)

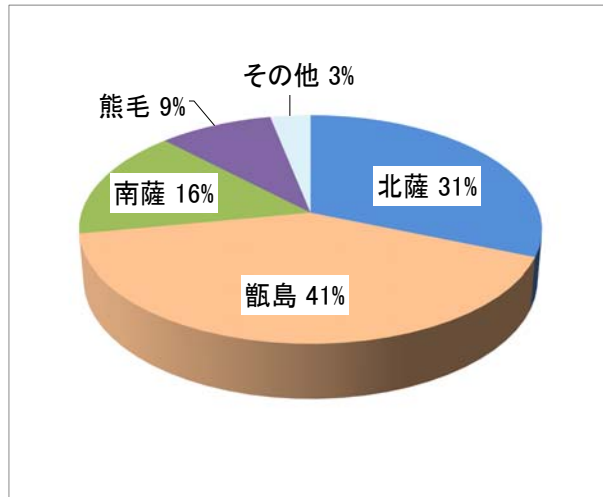


図3 海域別漁獲量の割合(データは図1と同じ)
※値はH16～25年の平均値

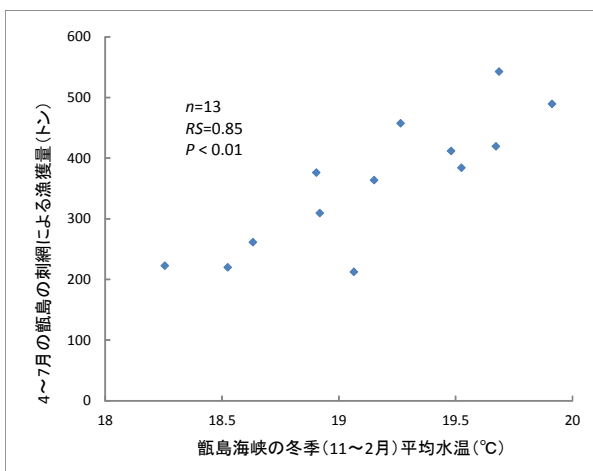


図4 甌島海峡の冬季水温と4～7月の甌島の漁獲量の関係(H14～26年)

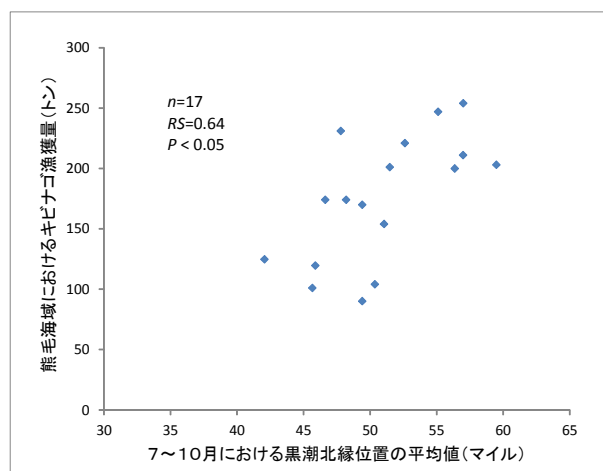


図5 7～10月の黒潮北縁位置の平均値と熊毛海域におけるキビナゴ漁獲量の関係(H9～25年)